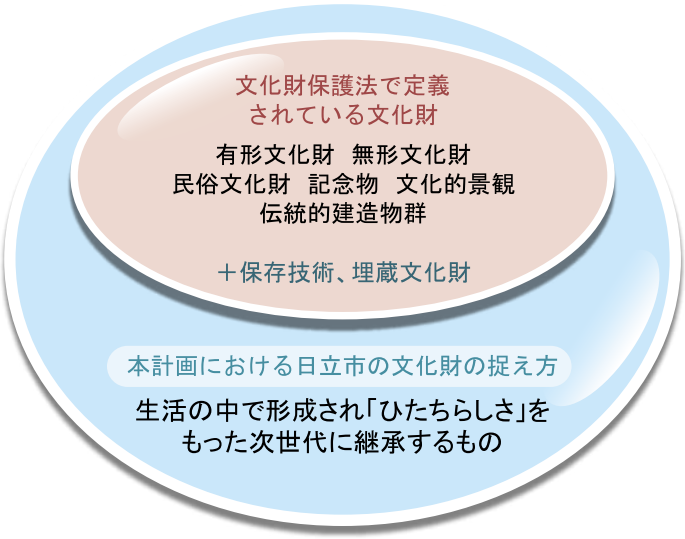
第２章　日立市の文化財の概要

１　文化財の把握

（１）本計画における文化財の捉え方

文化財は、地域の歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産である。文化財保護法で定義されている文化財は、指定等の措置がとられているか否かに関わらず、歴史上、芸術上または学術上価値の高いものを指しており、有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群の６類型に分類される。また、文化財保護法では、文化財の伝統的な保存技術や土地に埋蔵されている文化財（埋蔵文化財）も保護の対象としている。

第１章で整理したように、本市では、地域特有の自然的・地理的環境、社会的状況、歴史的背景の関わりによって、市民の生活の中で多くの文化財が形成されてきた。これらの文化財は、法令による保護の有無に関わらず、市民にとって価値があり、本市の歴史文化を示す重要な所産である。本計画では、文化財保護法が定める分類や、指定・選定・登録にあたっての価値基準にとらわれず、「ひたちらしさ」をもった次世代に継承するものを、幅広く文化財として捉える。



図：本計画における文化財の捉え方イメージ

（２）本計画における文化財把握の考え方

本市ではこれまで、歴史上、芸術上または学術上価値が高い文化財について、文化財保護法に基づく指定等により保護を図ってきた。さらに、地域の活性化や市民の愛郷心を高めると考えられる文化財について、本市独自の取組みとして平成26年度（2014）に『日立市民文化遺産ガイドブック』を編集・発行し、指定・選択・登録文化財以外の文化財の把握及び保存・活用を目指してきた。

今後は、これまで推進してきた地域の文化財の発掘・抽出に加え、文化財を多角的・総体的に捉え、相互の関連性を見いだすことによって、既往の類型にとらわれない実態の把握や価値の明確化を行っていく必要がある。さらに、文化財を単体や文化財群の一部としてのみ捉えるのではなく、周辺環境との結びつきの中で理解・把握することによって、市民と共に、周辺環境と一体となった保存・活用に積極的に取り組んでいくことが目指される。

『日立市民文化遺産ガイドブック』発行の取組とは

『日立市民文化遺産ガイドブック』は、指定文化財に限らず、市内に点在する様々な史跡・資料等を、地域の活性化と市民の愛郷心向上に資する共有財産として活用することを目指して編集・発行された。日立市民文化遺産は平成24年度（2012）・25年度（2013）に市民が主体となって開催された市民文化遺産活用会議において、各地域から推薦された自然・歴史・民俗・産業の各分野から選ばれている。

２　文化財の概要

（１）指定等文化財

本市の指定等文化財は次に示す通りであり、大正 11 年（1922）以降、73 件が指定等されている。水戸市の 192 件（令和３年９月時点）、隣接する常陸太田市の 160 件（令和３年９月時点）と比較すると、文化財の指定等の件数が少ないのが現状である。しかし、指定されている文化財の中には、国指定文化財である「日立風流物」や、日本唯一のウミウの捕獲地及びそこでの捕獲技術等、特筆すべき文化財もみられる。

また、鉱工業の町として発展した本市には多くの関連施設があり、これは本市の重要な歴史的・社会的資産である。しかし、鉱工業に関わる指定文化財は、旧共楽館（市指定）、５馬力誘導電動機（県指定）、旧久原本部（県指定）、下孫停車場紀念碑（市指定）の４件の指定に限られている。これらの鉱工業に関わる施設は、本市の特徴を示す文化財として後世に継承していくことが望まれる。

ア　国指定文化財（４件）

名称	所在地	指定年月日	種別	図中番号
日立風流物(5段屋形開閉式山車1基)	宮田町　神峰神社	昭和 34 年 5 月 6 日	重要有形民俗文化財	1
日立風流物	宮田町　神峰神社	昭和 52 年 5 月 17 日	重要無形民俗文化財	1
いぶき山イブキ樹叢	十王町	大正 11 年 10 月 12 日	天然記念物	2
長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡	十王町	平成 30 年 10 月 15 日	史跡	3

イ　県指定文化財（24 件）

名称	所在地	指定年月日	種別	図中番号
小野家住宅	諏訪町	昭和 49 年 11 月 25 日	建造物	5
絹本著色阿弥陀如来来迎図	日立市郷土博物館	昭和 49 年 3 月 31 日	絵画	6
木造釈迦如来三尊像	宮田町	昭和 37 年 10 月 24 日	彫刻	7
木造大日如来坐像	入四間町	昭和 44 年 12 月 1 日	彫刻	8
木造観音菩薩坐像	東河内町	昭和 44 年 12 月 1 日	彫刻	9
木造万年大夫夫婦坐像（胎内像を含む）	日立市郷土博物館	昭和 49 年 3 月 31 日	彫刻	10
木造薬師如来坐像	久慈町	昭和 54 年 11 月 1 日	彫刻	11
木造聖徳太子坐像	金沢町	昭和 57 年 3 月 4 日	彫刻	12
古鏡	弁天町	昭和 32 年 1 月 25 日	工芸品	13
蒔絵鏡箱	弁天町	昭和 49 年 3 月 31 日	工芸品	13
大般若波羅密多経	神峰町	昭和 37 年 2 月 26 日	書跡	14
訂正常陸国風土記版木　付箱板 2 枚	茨城県立歴史館	昭和 60 年 3 月 25 日	歴史資料	15
5 馬力誘導電動機　附設計図 1 枚	幸町	平成 14 年 1 月 25 日	歴史資料	16
十王台遺跡出土十王台式土器	日立市郷土博物館 東京国立博物館	平成 14 年 12 月 25 日	考古資料	17
日立風流物人形頭	神峰町	昭和 39 年 7 月 31 日	有形民俗文化財	14
日立のささら			無形民俗文化財	
宮田ささら	宮田町　神峰神社	昭和 38 年 8 月 23 日		18
助川ささら	鹿島町　鹿嶋神社	昭和 38 年 8 月 23 日		19
会瀬ささら	会瀬町　鹿島神社	昭和 38 年 8 月 23 日		20
大久保ささら	桜川町　伏見稲荷	昭和 45 年 9 月 28 日		21
諏訪ささら	諏訪町　諏訪神社	昭和 45 年 9 月 28 日		22
水木ささら	水木町　泉神社	昭和 45 年 9 月 28 日		23
成沢ささら	中成沢町　鹿島神社	昭和 46 年 7 月 19 日		24
佛ケ浜(度志観音を含む)	田尻町	昭和 30 年 6 月 25 日	史跡	25

助川海防城跡	助川町	昭和 42 年 11 月 24 日	史跡	26
泉が森	水木町　泉神社	昭和 44 年 12 月 1 日	史跡	27
旧久原本部	日鉱記念館	昭和 45 年 9 月 28 日	史跡	28
南高野貝塚	南高野町	昭和 54 年 3 月 8 日	史跡	29
海鵜渡来地	川尻町	昭和 31 年 5 月 25 日	天然記念物	30
御岩山の三本杉	入四間町　御岩神社	昭和 43 年 9 月 26 日	天然記念物	8
駒つなぎのイチョウ	大久保町　鹿嶋神社	昭和 44 年 12 月 1 日	天然記念物	31

ウ　市指定文化財（44 件）

名称	所在地	指定年月日	種別	図中番号
泉川道標	大みか町	昭和 46 年 1 月 21 日	建造物	32
入四間道標	東河内町	昭和 55 年 4 月 24 日	建造物	33
旧共楽館（日立武道館）	白銀町	平成 21 年 9 月 30 日	建造物	4
下孫停車場紀念碑	多賀町	平成 27 年 3 月 24 日	建造物	34
絹本著色涅槃図	日立市郷土博物館	昭和 55 年 4 月 24 日	絵画	6
木造阿弥陀如来坐像	入四間町	昭和 47 年 7 月 27 日	彫刻	8
日光・月光菩薩立像	久慈町	昭和 49 年 3 月 27 日	彫刻	11
木造阿弥陀如来坐像	日立市郷土博物館	昭和 53 年 12 月 21 日	彫刻	6
木造釈迦如来・多宝如来竝坐像	西成沢町	昭和 54 年 2 月 22 日	彫刻	35
火縄三眼銃	日立市郷土博物館	昭和 46 年 1 月 21 日	工芸品	6
旧助川西上町舞屋台	鹿島町	昭和 47 年 2 月 24 日	工芸品	36
東叡山石燈籠	諏訪町	昭和 48 年 8 月 23 日	工芸品	37
太刀（銘・大江勝永）	千石町	昭和 51 年 11 月 25 日	工芸品	38
短刀（銘・鷲鯢丸）	千石町	昭和 62 年 10 月 22 日	工芸品	38
藤田東湖揮毫諏訪神社大のぼり	日立市郷土博物館	昭和 46 年 1 月 21 日	書跡	6
藤田東湖揮毫南高野鹿島神社大幟	日立市郷土博物館	昭和 61 年 3 月 27 日	歴史資料	6
吉田神社棟札	日立市郷土博物館	平成 7 年 3 月 27 日	歴史資料	6
艫神社棟札	十王町	平成 4 年 12 月 1 日	歴史資料	39
友部村絵図	日立市郷土博物館	平成 13 年 3 月 21 日	歴史資料	6
諏訪遺跡出土縄文土器	日立市郷土博物館	平成 6 年 5 月 23 日	考古資料	6
愛宕原火葬墓出土骨蔵器	日立市郷土博物館	平成 13 年 3 月 21 日	考古資料	6
十王台南遺跡第 1 号住居跡出土遺物	日立市郷土博物館	平成 13 年 3 月 21 日	考古資料	6
明王山不動尊の絵馬	神峰町	昭和 60 年 2 月 28 日	有形民俗文化財	40
日立郷土芸能保存会北町支部所有の風流物人形頭	日立市郷土博物館	平成 13 年 12 月 21 日	有形民俗文化財	6
日立郷土芸能保存会西町支部所有の風流物人形頭	日立市郷土博物館	平成 13 年 12 月 21 日	有形民俗文化財	6
黒田入り口道標	十王町	平成 7 年 3 月 10 日	有形民俗文化財	41
大原道標	十王町	平成 7 年 3 月 10 日	有形民俗文化財	42
鵜捕りの技術	（十王町伊師・碁石浦）	平成 4 年 12 月 1 日	無形民俗文化財	30
鹿嶋神社流鏑馬	大久保町	平成 31 年 1 月 24 日	無形民俗文化財	31
助川海防城跡(県指定区域を除く)	助川町	昭和 45 年 8 月 20 日	史跡	26
大窪城跡及び暇修館跡	大久保町	昭和 47 年 7 月 27 日	史跡	43
相馬碑	多賀町	昭和 51 年 11 月 25 日	史跡	44
十王前横穴	川尻町	昭和 56 年 2 月 19 日	史跡	45
甕の原古墳群3号墳	大みか町	平成 6 年 5 月 23 日	史跡	46
甕の原古墳群4号墳	大みか町	平成 6 年 5 月 23 日	史跡	46
山野邊家墓所	高鈴町	平成 14 年 8 月 22 日	史跡	47
水漏舎小学校跡	中成沢町	平成 27 年 3 月 24 日	史跡	48
玉簾の滝	東河内町	昭和 46 年 7 月 21 日	名勝	49

小貝浜	川尻町	昭和 55 年 8 月 28 日	名勝	50
大甕神社境内樹叢	大みか町	昭和 46 年 4 月 22 日	天然記念物	51
澳津説神社のシイ	小木津町	昭和 48 年 8 月 23 日	天然記念物	52
本山の一本杉	宮田町	昭和 49 年 6 月 27 日	天然記念物	53
諏訪のヤマザクラ	諏訪町	昭和 49 年 6 月 27 日	天然記念物	54
愛宕神社境内「椎」	十王町	昭和 57 年 5 月 25 日	天然記念物	55

エ　国登録有形文化財（１件）

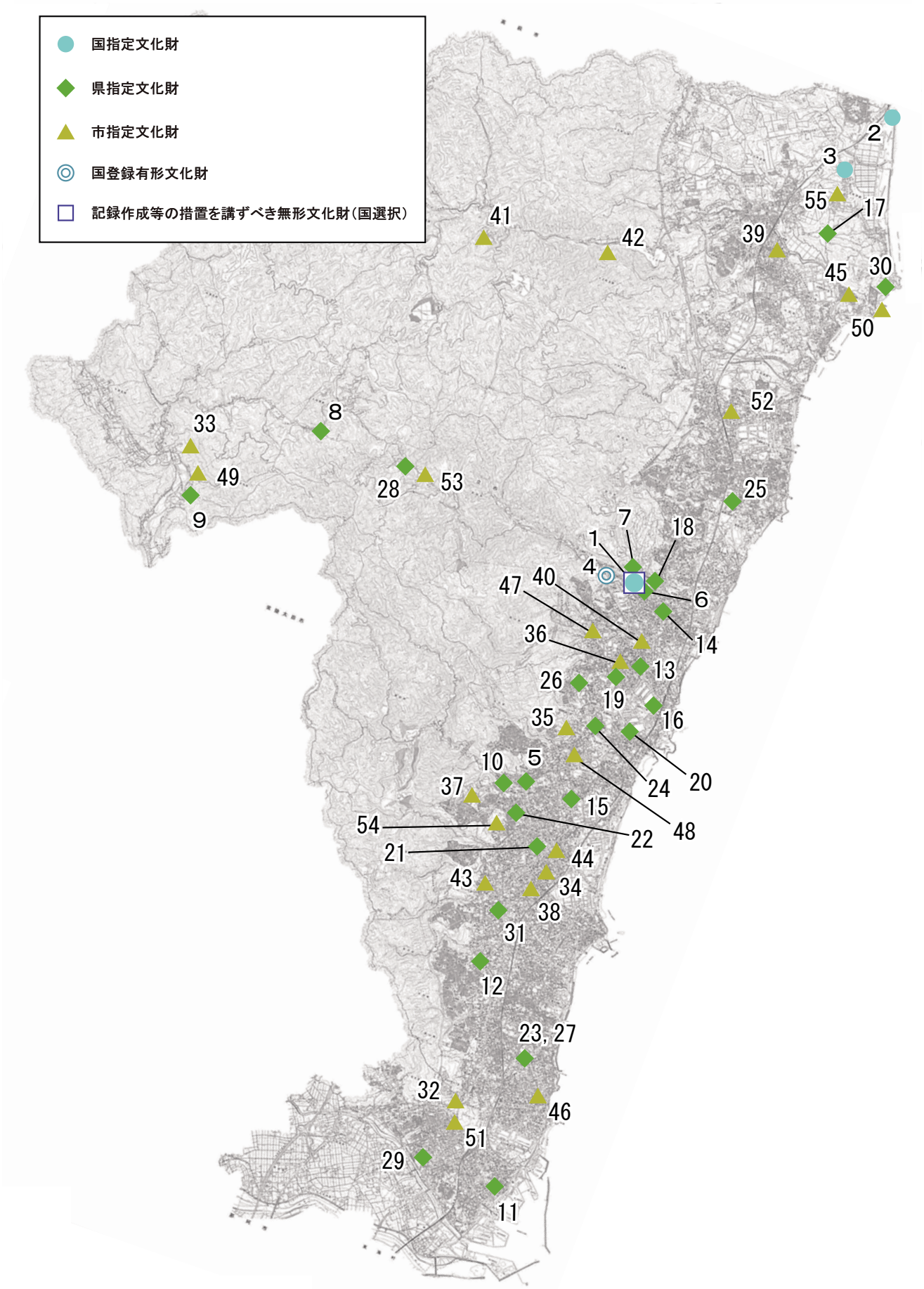
名称	所在地	登録年月日	種別	図中番号
旧共楽館（日立武道館）	白銀町	平成 11 年 7 月 8 日	－	4

オ　記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（国選択）（１件）

名称	所在地	選択年月日	種別	図中番号
日立風流物	宮田町　神峰神社	昭和 49 年 12 月 4 日	無形民俗文化財	1

（２）ユネスコ無形文化遺産

国指定文化財である「日立風流物」は、平成 28 年（2016）11 月 30 日（日本時間 12 月 1 日）、ユネスコの「無形文化遺産の保護に関する条約」における「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に「山・鉾・屋台行事」として記載された。



図：日立市の指定等文化財の位置

（３）未指定文化財

下記の取組みや調査等により、令和３年度現在、合計 45 件の未指定文化財が確認されている。

表：未指定文化財件数

種別		合計
有形文化財	建造物	9
	美術工芸品	3
民俗文化財		8
記念物	遺跡	11
	動物・植物・地質・鉱物	4
その他		10
合計		45

ア　日立市民文化遺産

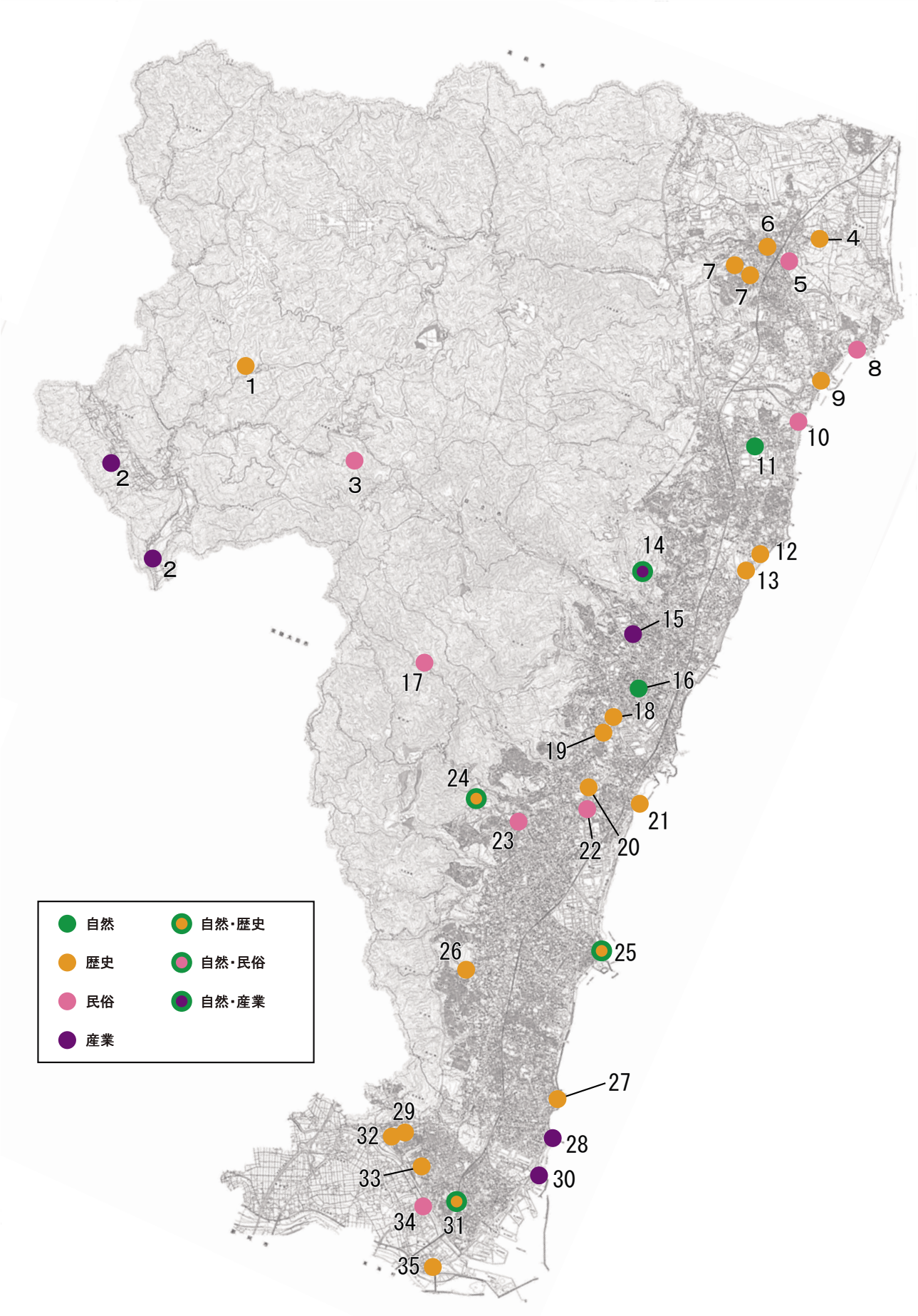
国、県、市の指定もしくは登録を受けていないが保存・活用を図っていくべき本市の文化財は以下のとおりである。これらは、平成 24 年度（2012）・25 年度（2013）に日立市民文化遺産として『日立市民文化遺産ガイドブック』にまとめられた 104 件から、指定文化財と重複するもの、既に存在しないものを除いて示した。

表：日立市民文化遺産一覧（35 件）

名称	所在地	種別	分野[2]	図中番号
撫子山の能因法師歌碑	中深荻町	建造物	歴史	1
中里発電所と里川発電所	東河内町、下深荻町	建造物	産業	2
御岩神社と回向祭	入四間町	民俗	民俗	3
伊師町一里塚跡	十王町伊師	史跡	歴史	4
十王町の徒歩鵜漁	十王町友部	民俗	民俗	5
友部海防陣屋跡	十王町友部	史跡	歴史	6
山尾城跡と友部城跡	十王町友部	史跡	歴史	7
金色姫伝説の伝わる蚕養神社	川尻町2丁目	民俗	民俗	8
大津淳一郎顕彰碑	川尻町1丁目	建造物	歴史	9
小木津浜風流物	小木津町	民俗	民俗	10
日立紅寒桜	日高町2丁目	天然記念物	自然	11
空窪廃寺の不動明王	田尻町7丁目	彫刻	歴史	12

[2]『日立市民文化遺産ガイドブック』において示された「民俗、歴史、自然、産業」の４分野を準用した。

太田尻海岸の西行法師歌碑	東滑川町5丁目	建造物	歴史	13
かみね公園と公園内の石碑群、動物園	宮田町5丁目	建造物	自然・産業	14
熊野神社の日立製作所創業石	白銀町1丁目	史跡	産業	15
平和通りのサクラ並木	神峰町、鹿島町、若葉町、弁天町、平和町、幸町	天然記念物	自然	16
金山百観音	助川町	民俗	民俗	17
助川一里塚跡	鹿島町3丁目	史跡	歴史	18
山野邊氏家臣墓所	城南町1丁目	史跡	歴史	19
水漏舎跡―池の川弁天池公園	中成沢町2丁目	史跡	歴史	20
島木赤彦歌碑	東成沢町1丁目	建造物	歴史	21
小豆洗不動尊	東成沢町3丁目	民俗	民俗	22
常陸之國御諏訪太鼓	諏訪町3丁目	民俗	民俗	23
諏訪梅林と長塚節歌碑	諏訪町	天然記念物	歴史・自然	24
河原子海岸の烏帽子岩と藤田東湖詩碑	河原子町2丁目	天然記念物	自然・歴史	25
照山修理顕彰碑	金沢町2丁目	建造物	歴史	26
でんがくばら児童公園の 長塚節歌碑と水木遠見番所跡	水木町1丁目	史跡	歴史	27
日立灯台	大みか町4丁目	建造物	産業	28
石名坂の西行法師歌碑	石名坂町1丁目	建造物	歴史	29
三代芳松像	久慈町1丁目	彫刻	産業	30
赤羽緑地と赤羽横穴墓群	久慈町5丁目	史跡	自然・歴史	31
西の妻古墳群1号墳	石名坂町1丁目	史跡	歴史	32
西大塚古墳群1号墳石室	南高野町3丁目	史跡	歴史	33
八つ凧	茂宮町	民俗	民俗	34
留町の木造聖観音像	留町	彫刻	歴史	35



図：日立市民文化遺産の位置

イ　「ひたちらしさ」を象徴する近現代の文化財

前項までに示したように、本市では、文化財保護法や文化財保護条例によって多くの文化財の保護が図られている。一方で本市には、文化財としての保護が図られていないものの、「日立市文化振興指針」で定めた「ひたちらしさ」を象徴し、後世に受け継がれていくべきものも多く存在している。

それらを、シティプロモーションの観点でまとめられた「『ひたちらしさ』地域資源データベース」から、「日立市文化振興指針」の記述や文献を参考に抽出し、「『ひたちらしさ』を象徴する近現代の文化財」として取り扱う。

近現代の歴史を伝えるもの、本市の基幹産業である鉱工業に関連するもの、「世界一」や「日本一」という評価を受けているもの、本市民にとって誇りや愛着の対象であると考えられるものを、産業、インフラ、観光、美術・学術、音楽、運動の分類で以下に選出した。

なお、産業に分類される文化財には、日立鉱山や日立製作所から発展した関連施設が挙げられるが、本項では稼働終了した施設や、用途変更を経て使用され続けている施設のみ取り上げた。

表：「ひたちらしさ」を象徴する近現代の文化財一覧（10 件）

分類	名称	概要	写真
産業	大煙突	煙害解決のために日立鉱山が建設した煙突である（大正4年（1915）完成）。全長155．7メートルは建設当時世界一の高さを誇った。平成5年（1993）に倒壊し、現在は、当時の三分の一が残った状態で稼働している。	写真：昭和 15 年（1940）の日立鉱山大雄院製錬所と大煙突（『新郷土日立　歴史』より）
	日立市天気相談所	地方自治体の行政組織として直営では唯一の気象観測所である。日立鉱山が煙害対策のため運営していたものを市が引き継いだ。	写真：日立市天気相談所（ひたち風 HP より）
	昇開式可動橋	市内の工場で作られた大型の発電機等を茨城港日立港区まで運ぶ大型トレーラーの通行を妨げないために、上下に動く国道 245 号線の歩道橋である。	写真：昇開式可動橋（ひたち風 HP より）

インフラ	日立ＬＮＧ基地	世界最大級の地上式LNGタンクが設置されている、茨城港日立港区内の東京ガス基地である。	 写真：日立 LNG 基地 （ひたち風 HP より）
	ＪＲ日立駅駅舎	本市出身の世界的建築家、妹島和世氏のデザイン監修の駅舎である。鉄道の国際デザインコンペティション「ブルネル賞駅舎部門」の優秀賞を受賞するなど、世界の最も美しい駅舎の一つとして高く評価されている。	 写真：JR 日立駅駅舎 （日立の観光案内 HP より）
観光	茨城県立 国民宿舎鵜の岬	太平洋を望むロケーションと丁寧な接客から、宿泊利用率が 29 年連続1位の国民宿舎である。	 写真：茨城県立国民宿舎鵜の岬 （ひたち風 HP より）
美術・学術	日立市郷土博物館所蔵品	日立市郷土博物館は「市民の教養と憩いの場」として、郷土に関わる多くの考古・歴史・産業・民俗・美術資料を所蔵している。	 写真：日立市郷土博物館
音楽	吉田メロディー	吉田正は昭和期を代表する本市出身の作曲家である。彼の作品は吉田メロディーと呼ばれており、市内の吉田正音楽記念館では様々な音楽イベントが市民に楽しまれている。	 写真：吉田正音楽記念館 （ひたち風 HP より）

運動	ラジオ体操	遠山喜一郎は昭和 26 年（1951）に放送が始まったラジオ体操の考案者である。明治 42 年に多賀郡坂上村（現在の水木町）に生まれ、ベルリンのオリンピックに体操の日本代表選手として出場した。	 写真：遠山喜一郎 （日立市 HP より）
	パンポン	創業時の日立製作所で生まれた、テニスと卓球の間のようなスポーツである。市内ではパンポンの大会や小学校での講習会が行われている。	 写真：パンポン （ひたち風 HP より）

３　文化財の特徴

（１）日立市の文化財の特徴

本市の指定等文化財は、年代的には原始・古代から近代までのものがあるが、中世以降のものが大半を占め、特に近世の割合が高い。中世の文化財には、平安時代末～安土桃山時代に本市域を支配した佐竹氏に関連する「相馬碑」や「鹿嶋神社流鏑馬」があり、近世の文化財には、江戸時代に本市域を支配した水戸徳川家の影響が確認できる「木造万年大夫夫婦坐像」や「助川海防城跡」がある。また、「長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡」や「泉が森」は、残存する風土記として全国的にも貴重な『常陸国風土記』が描く古代社会を映し出し、「旧共楽館」や「旧久原本部」、「５馬力誘導電動機」は鉱工業都市として発展してきた近代の本市の特徴をよく示す文化財である。

文化財の分類別では、おおむね有形文化財と記念物に二分されるが、数少ない民俗文化財には、重要有形民俗文化財と重要無形民俗文化財に指定される「日立風流物」がある。「日立風流物」や「日立のささら」は、本市の祭礼における代表的な奉納物である。

表：日立市の指定等文化財の分類及び件数

	有形文化財		無形文化財	民俗文化財	記念物			文化的景観	伝統的建造物群	合計
	建造物	美術工芸品等			遺跡	名勝地	動物･植物･地質･鉱物			
国指定	0	0	0	2	1	0	1	0	0	4
県指定	1	13	0	2	5	0	3	0	0	24
市指定	4	18	0	7	8	2	5	0	0	44
計	5	31	0	11	14	2	9	0	0	72
国登録	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	6	31	0	11	14	2	9	0	0	73

※ 合計欄の件数は、同一対象物について２件以上の指定・登録されている重複を含む。

未指定文化財については、主に市民が参加する調査・研究会により、各分野においておおむね把握が進んでいる。中でも、石仏や道標を含む石造物の調査はよく進んでおり、近世以降の信仰や交通、使用石材の流通等が把握されつつある。石仏や道標が確認できる街道は、本市の地理的な特徴から、古代から現代にかけて形成されてきた。

また、未指定文化財には「平和通りのサクラ並木」や「久慈小学校のケヤキ」等、本市の特徴的な景観や自然物も含まれている。

（２）類型ごとの特徴

日立市における文化財の類型別の特徴は次に示すとおりである。

ア　建造物

本市には６件（重複１件）の指定等文化財があり、建築物と住宅が各１件、他は道標等の石造物となっている。近現代における市域の発展とともに、建造物の更新や除却が進み、特に戦後の戦災復興や高度経済成長の流れの中で、現在に残る文化財としての価値を有するものが少なくなっている。その中にあって、建築物の「旧共楽館」は、本市の産業発展の礎となった鉱山の発展とともに従業員に娯楽を提供する福利厚生施設として整備され、現在は武道館としてその外観を残し利用され続けている。未指定の文化財における建造物は、歌碑や顕彰碑などの石造物が多い。

イ　美術工芸品

（ア）絵画

本市には２件の指定等文化財があり、県指定の「絹本著色阿弥陀如来来迎図」は鎌倉時代後期、市指定の「絹本著色涅槃図」は江戸時代の作と考えられる。前者は箱表の「瑠璃光院」の墨書銘から岩手県平泉に伝来したものともいわれ、また後者は失われた本市川尻町の寺院に伝わったものとされるなど、それぞれ来歴について不確かな点があるものの、いずれも仏教絵画として、各時代の特徴を表す優れた作例として評価されるものである。

（イ）彫刻

彫刻は指定等文化財が 10 件あり、うち９件が仏像、１件が神像である。これらの制作時期は室町時代から江戸時代に亘り、特に江戸時代に制作されたものは、水戸藩及び水戸藩２代藩主徳川光圀との関わりを示すものが散見される。特に諏訪神社に伝わる「木造万年大夫夫婦坐像」は、神人藤原高利が室町時代に自ら夫婦坐像を造立したものを、元禄３年（1690）に徳川光圀が新たな夫婦像を造らせてその胎内に収めたものである。神社を勧請した人物の神像は珍しく、中世の歴史資料としても貴重なものである。

（ウ）工芸品

指定等文化財は７件あり、具体的には室町時代の作とされる「古鏡」「蒔絵鏡箱」、江戸時代の「火縄三眼銃」「太刀」「短刀」「東叡山石燈籠」、そして近代の「旧助川西上町舞屋台」である。「火縄三眼銃」は天保 10 年（1839）に水戸藩の鉄砲師が制作し、代々猟師だった入四間の住吉家に水戸藩から下付されたものである。「太刀」「短刀」はいずれも、助川海防城海防惣司・山野邊義見の家臣が制作したものである。これらは江戸時代後期の水戸藩の本市との関わりを物語る工芸品である。

（エ）歴史資料

指定、未指定を含め、本市には中世以前の歴史資料が少なく、わずかに棟札などの寺社建築に付随するものがある。近世、近現代では、村方文書や役場文書、民間企業に関わる文書類が多い。明治期の貴重な資料として、県指定文化財の「５馬力誘導電動機 附設計図１枚」があり、未指定ではあるが「５馬力誘導電動機（日立市郷土博物館展示）」とともに、工業都市として発展した本市ならではの歴史資料である。

（オ）考古資料

縄文時代から古墳時代までの出土品４件が指定されており、特に県指定文化財の「十王台遺跡出土十王台式土器」は、弥生時代後期の土器で、北関東の弥生時代の学術的指標となる本市の地名を冠する貴重な土器である。考古資料の大部分は、発掘調査に伴い出土した土器や石器などで、調査分析中のため未指定である。

ウ　民俗文化財

（ア）有形民俗文化財

国指定１件を含む７件の有形民俗文化財は、うち４件が本市を代表する文化財である「日立風流物」に関するもので、５段屋形開閉式の山車と、屋形で演じられる人形芝居の操り人形の頭などである。他の３件は、道標や絵馬など、近世・近代の人の動きや暮らしを知る貴重な歴史文化財である。

（イ）無形民俗文化財

４件の無形民俗文化財のうち２件は、国指定の有形民俗文化財である「日立風流物」の山車の組立、人形の製作と操作と、祭礼のとして「日立風流物」と同時に奉納される獅子舞の「日立のささら」である。このほか、「鹿嶋神社流鏑馬」があり、祭礼としての行事が多くを占めている。また、本市が国内唯一の鵜の捕獲地となっていることに関連して、その「鵜捕りの技術」があり、本市ならではの貴重な文化財である。未指定の無形民俗文化財については、地域の祭事や伝承に関わるものが多く、「金色姫伝説の伝わる養蚕神社」などは、全国的にみても貴重なものである。

エ　記念物

（ア）遺跡

指定を受けている 14 件（重複１件）の遺跡は、縄文時代から近代まで幅広く構成されている。特に、全国的にも貴重な『常陸国風土記』に関係する、長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡、佛ケ浜、泉が森、十王前横穴は、風土記の描かれた奈良時代の地名をたどることができる。

（イ）名勝地

名勝地は市指定の２件が所在する。玉簾の滝は山間部、小貝浜は海沿いにあたり、本市の山と海が接する自然環境を反映している。玉簾の滝は、水戸藩主や文人墨客が来遊する歴史上の名勝地であるとともに、地質学上でも重要な日本最古のカンブリア紀層が露出し、多面的な文化財的価値を包含している。小貝浜には、当該地に接して全国でも珍しい養蚕を祀る神社が鎮座し、海沿いを北に進めば県指定天然記念物「海鵜渡来地」に続く全国唯一のウミウの捕獲場がある。いずれも単なる名勝地にとどまらず、文化財的分野を横断して本市の歴史的背景を知ることができるものである。

（ウ）動物・植物・地質・鉱物

本市の天然記念物は９件あるが、そのうち８件が樹木、またはその集合からなる樹叢である。本市を含む茨城県北域は暖温帯林の北限域にあたり、自然分布の北限域にある国指定のいぶき山イブキ樹叢はその典型である。植生の稀少性と、イブキとしては大木の叢生であるため、大正 11 年（1922）に指定を受けた本市域における文化財保護の先駆けと言える。その他は社寺敷地内にあるものが多く、鎮守の森として地域の保護を受けてきた結果の顕れである。なお、海鵜渡来地は高さ 30mの海食崖で、その景観とともに、ウミウの捕獲場としても貴重である。指定地内の海食洞は「八幡太郎の馬の足跡」とも言われ、地域伝承とのつながりも垣間見える。

（３）特筆すべき文化財

ア　主な建造物

（ア）旧共楽館（日立武道館）

大正６年（1917）に竣工した共楽館は、日立鉱山の従業員とその家族のための福利厚生施設である。西洋の建築技術を取り入れつつ日本の伝統的な千鳥破風・唐破風屋根などの建築意匠を配した、和洋折衷の大型木造建築物として、鉱山従業員によって設計された。２階には桟敷席が設けられ、およそ 1000 人を収容可能で、歌舞伎の上演を想定して建設されたため、館内には回り舞台と格納型の花道があった。

周辺住民にも開放され、映画会や歌舞伎、歌謡ショーなどが開催されるなど、地域の文化振興に寄与した。現在は日立武道館として柔剣道練習に利用されている。建設当時の外観を尊重した改修を行い、日立鉱山発展を示す歴史的・社会的資産として貴重な施設である。

（イ）小野家住宅

小野家住宅は、18 世紀前期（江戸時代中期）に建てられたと推定され、県内の代表的な曲屋（まがりや）のひとつである。桁行 9 間、梁間 3 間半の主屋に、3 間×2 間半の曲り部分が付く。平面構成は、右手の床上部と左手の土間部から成る。床上部は、土間側から、12 畳敷の「ひろま」、6 畳敷の「なかま」とその北側の 4 畳半板敷の「へや」、そして一番上手には 8 畳敷の「ざせき」が並んでいる。「ざせき」には、床の間が設けられ、床柱・落し掛・長押には、丸太材の皮部分を残した、いわゆる「面皮材」を用いた数寄屋風の意匠が見られる。

イ　主な年中行事

本市で年間に開催される主な年中行事には、以下のものがある。

鳥追いまつり・鳥追い行事やどんど焼き（焚きあげ祭）、まゆ玉飾りは、一年の無病息災や五穀豊穣を祈って行われる地域の伝統行事である。御岩神社の回向祭は、宗教宗派を問わず死者の冥福を祈り執り行う、神仏混淆の仏事である。

神峰神社大祭礼は７年に一度の祭礼であり、宮田町の東・北・本・西町から全４台の日立風流物が一斉公開される。また、宮田ささら・助川ささら・会瀬ささらが渡御行列の露払いを務める。同様に、一年に一度の助川鹿嶋神社、泉神社、諏訪神社の例祭及び例大祭では、助川ささら、水木ささら、諏訪ささらがそれぞれ奉納される。鹿島神宮御船祭は 12 年に一度行われ、最近では平成 26 年（2014）に開催された。開催時には、鹿島神宮（鹿嶋市）の御分霊を勧請した会瀬鹿島神社から、会瀬ささらが奉納される。

金砂神社大祭礼は 72 年に一度行われ、最近では平成 15 年（2003）に開催された。西金砂神社

と東金砂神社（常陸太田市）の神輿が本市の水木浜へ渡御し、その途中で田楽舞や神事が執り行われる。行程が一週間に亘るため、神輿の御休場が設けられており、本市の石名坂にもその一つがある。

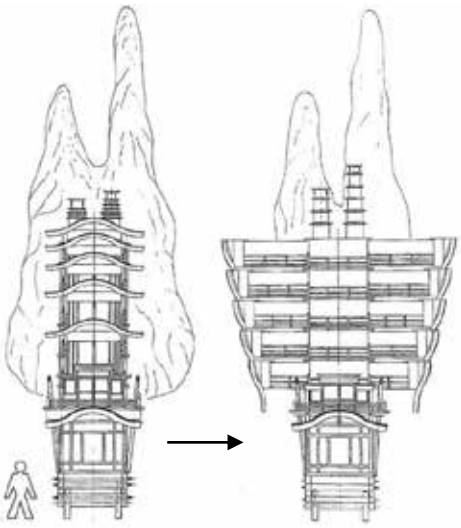
表：日立市で開催される主な年中行事

行事名＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
鳥追いまつり・鳥追い行事〈毎年〉	■											
どんど焼き（焚きあげ祭）〈毎年〉	■											
まゆ玉飾り〈毎年〉	■											
助川鹿嶋神社例祭〈毎年〉										■		
御岩神社の回向祭〈毎年〉				■						■		
泉神社例大祭〈毎年〉					■							
諏訪神社例大祭〈毎年〉										■		
神峰神社大祭礼〈7年に一度〉					■							
鹿島神宮御船祭〈12 年に一度〉									■			
金砂神社大祭礼〈72 年に一度〉			■									

以下に、本市の年中行事のうち文化財指定を受けている「日立風流物」「日立のささら」「鹿嶋神社流鏑馬」について記述する。

（ア）日立風流物

日立風流物は、以前は宮田風流物と呼ばれ、宮田地区の鎮守である神峰神社の大祭礼に氏子たちが奉納公開してきた山車である。現在は、専用の収蔵庫内に保管されており、神峰神社大祭礼において４町の日立風流物４台が一斉公開されるのに加え、平和通りで毎年開催される日立さくらまつりにおいても４町の廻り番で一台が公開されている。五段屋形開閉式山車で、その規模は高さ約 15m、間口下方で約３m、上部山の部分で約 5.5m あり、それが開いた時幅約８m、重さは約５ｔある。山車の上は５層で、各層ごとに唐破風造りの屋形があり、このうち３層から５層までは、カグラサン（手動式エレベーター）でせり上がりのあと屋形が割れる仕組みになっている。割れる部分を「開き」といい、ここが人形芝居の舞台となる。屋形の後側を「裏山」といい、藤蔓と山木綿約 100 反を使って山の形に仕上げる。ここでも山を背にした人形芝居が行われる。日立風流物は規模の雄大さ、山車と人形芝居との組み合わせ、綱の操作による山車の変化及び人形の動き等に、他に類をみない特異性がある。



図：日立風流物
（『ガイドブック　日立風流物』より）

（イ）日立のささら

ささらは、地域の神社祭礼の際に渡御行列に供奉し、露払いの役目をつとめ、五穀豊穣や疫

病退散、家内安全を祈念して神社に奉納される獅子舞である。本市内には宮田・助川・会瀬・成沢・諏訪・大久保・水木にささらが伝わっている。ささらとは本来、竹をすり合わせる「すりざさら」という楽器のことであるが、本市の獅子舞ではすでに使われていない。ささらの構成は、獅子３匹（大獅子・中獅子・雌獅子）と、その獅子の周囲を跳びはねる「しゃぐま（赤熊)」である。ささらの舞いは「すりこみ」と「前庭」、「後庭」があるが、略して前庭だけの「半庭」をすることもある。

（ウ）鹿嶋神社流鏑馬

鹿嶋神社流鏑馬は、馬１頭、騎手・引手各１人が神社参道を歩みながら３箇所の的に矢を射て、これを３回繰り返す。現在、毎年 10 月 29 日に秋季例大祭で実施している。

この祭事は、『常陸多賀郡史』において、佐竹氏第 18 代当主佐竹義重が関わり、天正 12 年（1584）９月に始まったと伝えられている。水戸藩政下の寛文３年（1663）の「鎮守開基帳」には、鹿島明神の除地（年貢免除地）として屋敷（境内）のほか、高６斗６升７合分の「やぶさめ免」が記されている。「やぶさめ免」は流鏑馬を行うのに必要な経費をまかなうために無税扱いする田畑のことで、慶長７年（1602）８月の幕府代官頭彦坂小刑部元正の検地によって認められたものである。つまり慶長７年段階で流鏑馬が行われていたことは明らかで、流鏑馬が始められたのは、これよりさかのぼることは確かである。また、これよりのちの明和２年(1765)に流鏑馬が行われていたことが岡部玄徳の「常陸国多珂郡大窪大宮鹿島大神宮縁起」でわかるので、江戸時代を通じて行われていたことがうかがえる。

写真：宮田ささら
（『新郷土日立　地理 〈改訂二版〉』より）

写真：鹿嶋神社流鏑馬

ウ　主な史跡

（ア）長者山官衙遺跡及び常陸国海道跡

日立市北部の洪積台地東端、標高 20～25mに立地する奈良時代から平安時代にかけての古代の道（官道）と官衙関連施設（役所）の跡である。長者山遺跡と藻島駅路跡、伊師東Ｂ遺跡の３遺跡で構成されるが、それぞれが関連しあう一体の遺跡であることがわかったため、一つの史跡として指定された。遺跡東側の低地には「目島（めじま）」の地名が残り、この周辺は『常陸国風土記』の「藻島駅家（めしまのうまや）」の有力な推定地とされている。

平成 17 年度（2005）からはじまった十王町史編さん事業による学術調査と、その後の保存目的の調査によって、幅約６ｍ（一部は最大 18mと推定）の古代官道の痕跡が見つかり、この古代官道に隣接して、溝で区画された８世紀から 10 世紀の 20 棟以上の建物跡が発見された。８世紀中葉から９世紀中葉までの掘立柱建物は「藻島駅家」、９世紀中葉から 10 世紀の礎石建物は常陸国多珂郡の正倉別院の可能性がある。

（イ）助川海防城跡

助川海防城跡は、水戸藩第９代藩主徳川斉昭の海防政策により、天保７年（1836）に家老の山野邊義観を海防惣司に任命し築かせた平山城の跡である。諸外国が江戸幕府に開国を迫る中、異国船に備え海防を目的とした城で、他には類例がみられない。「助川村絵図」によれば、山野邊氏や家臣の住宅のほか、諸器具製作所、馬場や矢場などの教練所、学校である養正館などがあったとされるが、元治元年（1864）、第３代海防惣司山野邊義藝の時に天狗・諸生の乱によって焼失し、現在は礎石や、義観が自ら刻んだ「鳩石」のみが残る。

築城当時は「助川館」「山野邊館」「助川堡（とりで）」「助川陣屋」などと呼ばれていたが、戦後に海防のための城郭という点を重視すべきという意見が興り、昭和 42 年（1967）に「助川海防城跡」として県史跡に指定されてからは、助川海防城という名称が用いられている。現在は助川城跡公園として整備され、市民の憩いの場となっている。

４　既存の文化財調査の概要

（１）周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）

本市の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）は、旧石器時代から近世（江戸時代）までのものが発見されており、市全体で約 350 箇所が登録されている。登録は、地形の起伏や遺物が採集されるなどして古くから知られている場所もあったが、文化財保護を目的に大規模かつ体系的に遺跡の把握から登録までを実施したのは、昭和 30 年代後半からのことである。この成果は、旧本市及び旧十王町の文化財行政担当課が中心となって、約 10～20 年毎に実施した調査によっている。

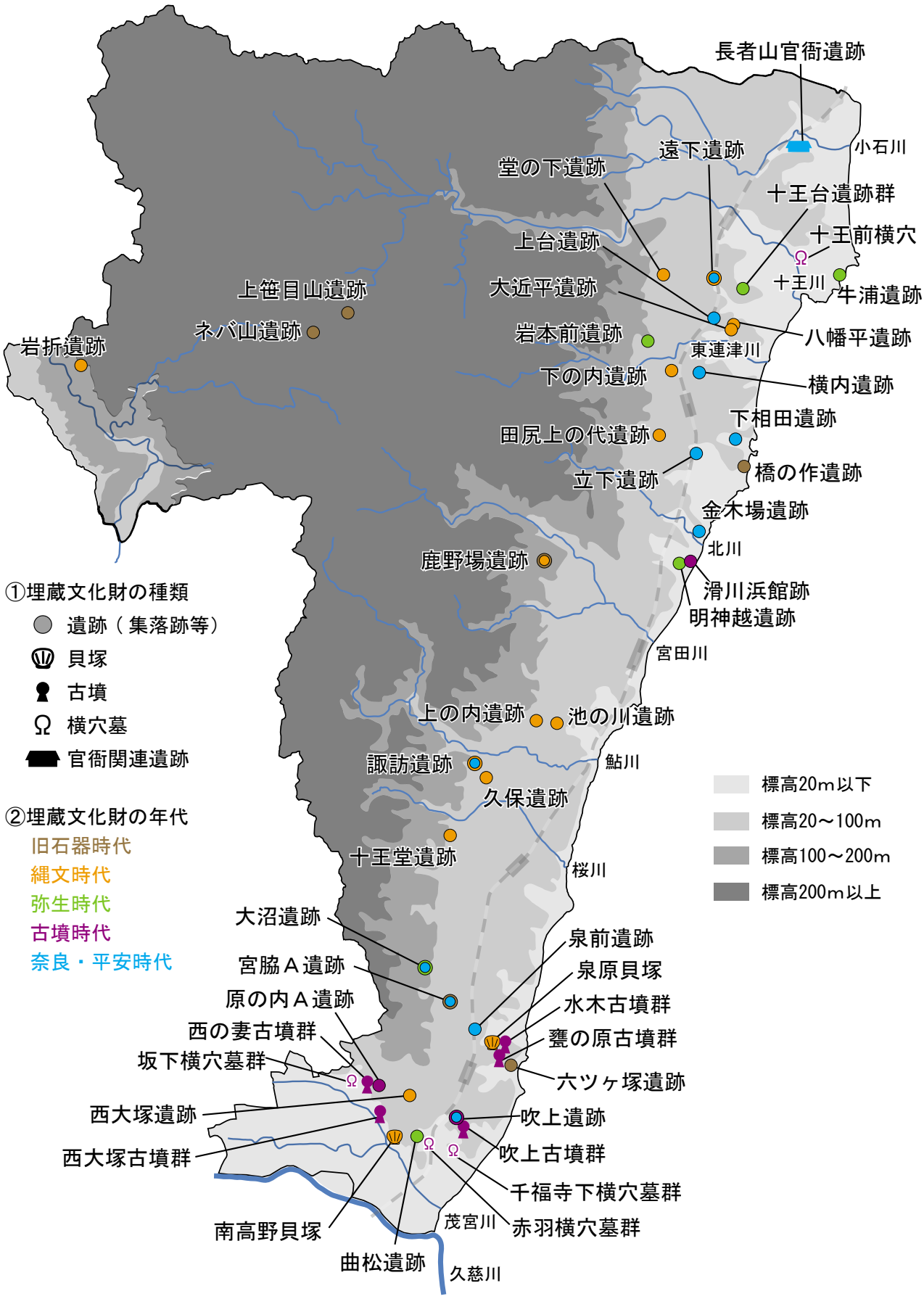
本市の遺跡数は時期区分毎にみると、以下のとおりである。ただし、同一位置の遺跡で、複数の時期区分にまたがるものもある。

表：日立市の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）数

時期区分	遺跡数	時期区分	遺跡数
旧石器時代	14 箇所（２％）	奈良時代	126 箇所（20%）
縄文時代	147 箇所（23%）	平安時代	129 箇所（20%）
弥生時代	45 箇所（７％）	中世	30 箇所（５％）
古墳時代	116 箇所（18%）	近世	27 箇所（５％）

この時期区分毎の遺跡件数は、一見して、時期区分毎の集落数または人口を反映しているようにも見えるが、各時期区分において、必ずしも均質な条件下で発見されているとは限らない。例えば、旧石器時代の遺跡は、上笹目遺跡やネバ山遺跡、鹿野場遺跡のように、山間部や丘陵地にも残されている場合が他の時期区分の遺跡より多いと考えられるが、山間部や丘陵地は険しい地形であり、踏査が困難であるし、何よりも耕作などにより地中の状況を確認できる機会が少ない。したがって、山間部や丘陵地には未発見の旧石器時代の遺跡が存在する可能性がある。また、中世以降は、それ以前に比べて建物基礎への礎石の利用が普及したため、礎石建ちの建物はその礎石が失われれば、建物があった痕跡は見いだしがたい。したがって、本来、建物があった場所だとしても、わずかな痕跡が失われれば、遺跡として認定することができないため、中世及び近世の遺跡数が少ないのも必ずしも実態を反映しているとは言えない。

なお、本市に特徴的な遺跡としては、長者山遺跡で発見された道（古代官道）がある。一般的に、道はどの時代においても人間にとって身近で重要なものであるが、現在の舗装道路の下位に存在したり、その痕跡がわずかであったりして、遺跡として認定し難い。古代から近世の古代官道または街道は、本市を南北に縦断しているが、遺跡として登録されているのは、長者山遺跡の範囲内にとどまる。



図：日立市の埋蔵文化財の位置

（２）建造物調査履歴

本市に関わる建造物調査報告書及び掲載されている文化財は、以下のとおりである。

表：建造物調査報告書一覧

資料名	発行者	発行年	掲載されている本市の文化財		
			名称	所在地	建造年代
茨城県の民家（茨城県民家緊急調査報告書）	茨城県教育委員会	昭和51年（1976）	椎名家住宅	日立市東河内町	19世紀前期
			横山家住宅	日立市茂宮町	19世紀前期
			大内家住宅	日立市留町	19世紀前期
			宇佐美家住宅	日立市小木津町	19世紀中期
			赤津家住宅	日立市茂宮町	19世紀後期
茨城県の近世社寺建築	茨城県教育委員会	昭和57年（1982）	鹿島神社摂社八幡神社本殿	日立市大久保町	室町時代後期
茨城県の近代化遺産　茨城県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書	茨城県教育委員会	平成19年（2007）	日立鉱山第一竪坑	日立市宮田町	竪坑：明治39年（1906）、櫓：昭和4年（1929）
			旧日立鉱山コンプレッサー室	日立市宮田町	昭和19年(1944)
			旧日立鉱山大煙突・第三煙突・煙道	日立市宮田町	大正4年(1915)
			旧日立鉱山電錬工場電解室	日立市白銀町	明治44～大正5年(1911～1916)
			旧日立鉱山第二変電所	日立市宮田町	大正5年(1916)
			旧久原本部と山神社	日立市宮田町	明治38年(1905)
			東暁館世外庵	日立市旭町	明治33年(1900)
			旧日立鉱山大角矢社宅跡	日立市宮田町	明治～昭和期
			旧日立鉱山水道	日立市	大正・昭和戦前期
			旧共楽館	日立市白銀町	大正6年(1917)
			斯道館	日立市白銀町	昭和9年(1934)
			旧日鉱煙害対策植樹	日立市全域	明治42年(1909)
			楓橋	日立市宮田町	昭和5年(1930)
			旧日立鉱山電気鉄道跡	日立市宮田町	明治43年(1910)
			日立セメント太平田鉱山索道	日立市助川町	昭和12年(1937)
			日立製作所日立工場本館	日立市幸町	昭和11年(1936)
			大甕倶楽部、大甕陶苑	日立市大みか町	昭和11～12年(1936～1937)
			大甕ゴルフ倶楽部	日立市大みか町	昭和11年(1936)
			日立製作所会瀬住宅	日立市会瀬町	昭和11年(1936)以降
			熊野神社	日立市宮田町	大正7年(1918)
			里川系近代化土木遺産群	常陸太田市～日立市	明治41(1908)～昭和12年(1937)
			中里発電所	日立市東河内町	明治41年(1908)
			里川発電所	日立市下深萩町	大正12年(1923)
			十王川水系発電所	日立市十王町	大正10年(1921)
			川尻川発電所	日立市十王町	大正10年(1921)
			茨城電力高原発電所取水堰	日立市十王町	大正11年(1922)
			旧早川医院	日立市久慈町	大正9年(1920)

茨城県の近代化遺産　茨城県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書	茨城県教育委員会	平成19年（2007）	日立駅海岸口駅舎	日立市	昭和19年(1944)
			折笠トンネル	日立市	下り線:明治30年（1897）、上り線:大正5年（1916）
			宮田川水抜きアーチ橋	日立市	明治30年(1897)
			旧日立電鉄線久慈―南高野間トンネル	日立市久慈町	昭和2年（1927）
			旧日立電鉄大橋高架橋	日立市大和田町	昭和2年（1927）
			1トン爆弾弾痕	日立市幸町	昭和20年(1945)
			岩田邸	日立市大みか町	大正14年(1925)
茨城県近代和風建築総合調査報告書	茨城県教育委員会	平成29年（2017）	旧共楽館（日立武道館）	日立市白銀町	大正6年(1917)
			内山家住宅	日立市水木町	明治2年(1869)か

（３）その他市史・文化財調査報告書等記録

本市に関わる市史・文化財調査報告書は、以下のとおりである。

表：市史・報告書等記録一覧

資料名	発行・著者・編集者	発行年
日立風流物記録　歴史と記録	日立郷土芸能保存会	昭和51年（1976）
図説　日立市史　市制50周年記念	日立市史編さん委員会	平成元年（1989）
日立のいまむかし	ふるさとひたち刊行会	平成5年（1993）
新修　日立市史　上巻・下巻	日立市史編さん委員会	平成6年（1994） 平成8年（1996）
図説　十王町史	十王町史編纂委員会	平成16年（2004）
ガイドブック　日立の文化財めぐり	日立市郷土博物館	平成20年（2008）
新郷土日立　地理　〈改訂二版〉	日立市教育委員会	平成31年（2019）
新郷土日立　歴史	日立市教育委員会	平成19年（2007）
ガイドブック　助川海防城と陣屋・番所・台場	助川海防城跡保全会	平成19年（2007）
十王町史　地誌編	十王町史編さん調査会	平成20年（2008）
十王町史　通史編	十王町史編さん調査会	平成23年（2011）
写真でたどる日立百年のあゆみ　日立鉱山創業105年　日立製作所創業100年　写真集	日立市郷土博物館	平成23年（2011）
常陸国風土記にみる日立	日立市郷土博物館	平成25年（2013）
平成26年度日立市民文化遺産ガイドブック	日立市教育委員会	平成26年（2014）
茨城県歴史の道調査事業報告書近世編Ⅲ	茨城県教育委員会	平成27年（2015）
「阿武隈山地南部、ジルコン U-Pb 年代値に基づく日立変成岩類層序の再定義と日本海形成前の東北日本列島基盤の復元」	田切美智雄、堀江憲路、足立達朗	平成28年（2016）

（４）今後必要な調査

これまでに実施された調査などを整理し、未調査の項目や現状調査が必要な項目について以下に示した。

表：今後必要な調査一覧

種別	今後必要な調査
建造物	・近代産業の発展など地域の歴史を伝える鉱工業関連施設の調査
美術工芸品	・日立市郷土博物館収蔵資料目録に未掲載の新出の古文書、絵図、歴史器物、絵画等の調査
無形文化財	・地域に伝わる伝承技術の調査
民俗文化財	・身近な伝承や信仰に関する調査 ・市内各地域の伝統行事の調査 ・人物伝等の調査
遺跡	・中近世の佐竹氏及び水戸徳川家にまつわる城館・社寺に関する調査
名勝地	・新たな名勝の候補地選考
動物・植物・地質鉱物	・景観を構成する重要な樹木等の調査
文化的景観	・近代鉱工業・農業・漁業景観などの調査
伝統的建造物群	・地域性を有する建造物群の調査
その他	・地域の小字名等の古地名の調査及び記録 ・戦災被害に関わる調査および記録

５　文化財に関する普及・啓発活動

（１）日立市郷土博物館の取組

日立市郷土博物館では、文化財を永く後世に伝えるため、本市内に所在する文化財を保護し、啓発及び活用を促すための活動を行っている。主な活動内容は、次に示す通りである。

ア　調査・収集・整理保存活動

博物館活動の基礎となる資料充実のため、歴史・美術・考古・民俗・産業・自然の各分野で日常的な調査、研究活動を行っている。また、市民から歴史資料、美術資料、考古資料、民俗資料、行政資料等を受贈している。さらに、当館は本市の公文書館としての役割も担っており、市民ボランティアと協働して、歴史的資料を整理保存している。

イ　展示活動

豊かな自然の中で展開されてきた日立の歴史、文化、産業、暮らしと祭りに関する資料を常設展示している。また、年に数回、本市にまつわる特別展示を行っており、長者山遺跡や日立風流物など特筆すべき本市の文化財について扱っている。近年開催された主な特別展示は、以下の通りである。

表：近年の展覧会一覧

分類	名称	
収蔵品展	市民が守る日立の自然 現代の美術家たちを中心に 斉藤勇太郎展	長者山遺跡の時代 日立風流物展 五島耕畝と荒木一門
ギャラリー展	常陸名所図屏風に見る日立地方 長者山遺跡応援企画・おもしろ常陸国風土記展	日立の戦災 米軍が記録した日立空襲

さらに、日立市郷土博物館では日立市かみね動物園が隣接する立地を活かし、平成 27 年(2015)から協同企画「ズーハク」を開催しており、動物の埴輪を作るワークショップや、縄文時代の人と動物の関わりを知る体験型ガイドツアー等を行っている。

ウ　教育活動

教育活動に関係するイベント開催や出版物発行、学習支援等を行っている。近年の活動内容は以下の通りである。また、これらの活動以外にも他団体が主催する事業を支援している。

表：近年の教育活動一覧

分類	名称	日程
イベント開催	ふるさと教室　地学	毎月1回
	ふるさと教室	毎月1回
	古文書学習会	毎月1回
	八つ凧つくり講習会	毎年 12 月第1土曜日
	日立市民凧あげ大会	毎年1月第2土曜日
	豊かな体験支援事業「夏休みこども教室」	夏休み中土・日曜日随時
出版物発行	『紀要』発行	年1回
	広報紙『市民と博物館』発行	年4回
学習支援	「日立ふるさと文化少年団」の活動支援	毎月1回
	小学生の団体見学への対応	随時
	出前講座	随時

エ　指定等文化財及び埋蔵文化財に関する活動

日立市文化財保護審議会の開催、日立郷土芸能保存会や日立市文化財愛護協会等の活動支援、埋蔵文化財発掘調査の実施及び指導・監督、環境整備等を行っている。

日立郷土芸能保存会は、日立風流物の公開や修繕を行う団体である。日立市郷土博物館は、日立風流物の価値を再認識した上での郷土への愛着涵養と後継者育成のために、日立郷土芸能保存会と協働で、日立風流物に関わる研修会などを開催している。日立市文化財愛護協会は、市内の文化財の保護に努めるとともに、市民の文化財愛護精神や郷土愛を高めることを目的に、佛ヶ浜など市内 14 箇所の文化財を拠点として愛護活動を行う団体である。

（２）日立市の取組

日立市の生活環境部コミュニティ推進課と教育委員会生涯学習課によって、それぞれ日立市コミュニティ推進会とひたち生き生き百年塾の取組みが実施されている。

日立市コミュニティ推進会は、行政と協働した地域課題の解決と住みよいまちづくりを目指して、市内 23 学区に組織された団体である。そこで行われる活動には、「日立の魅力再発見ウォーク事業」や、地域の誇りとなるものを集めた「ふるさとマップ」の作成等が含まれており、市民による地域の文化財の発見が推進されている。

ひたち生き生き百年塾は、市民の生涯学習を支援する団体である。そこで行われる活動には、「日立のまち案内人」による市内文化財の案内や、古文書読解や歴史研究等といった専門性や経験を持つ「市民教授」による「生き生き講座」の開催等が含まれており、市民自身がボランティアとして教え合い学び合う活動が推進されている。

（３）市民団体の取組

本市の文化財の普及・啓発に関わる市民団体は、以下の通りである。保存会では、文化財の保存・継承を図っている。日立市文化少年団では、子供たちが関心ある様々な事柄について体験できる活動を展開しており、本項では特に文化財に関係するものを挙げた。調査・研究会は、日立市郷土博物館の編集協力を得て、調査・研究結果を取りまとめ刊行している。

表：市民団体の取組一覧

団体名		取組内容
保存会	宮田佐々羅保存会	神峰神社へ奉納するささらの継承
	助川鹿嶋神社助川佐々羅保存会	
	会瀬佐佐羅保存会	
	諏訪神社諏訪散々楽保存会	諏訪神社へ奉納するささらの継承
	大久保鹿嶋神社上孫散々楽保存会	大久保鹿嶋神社へ奉納するささらの継承
	水木ささら保存会	泉神社へ奉納するささらの継承
	成沢郷土芸能保存会	成沢鹿島神社へ奉納するささらの継承
	日立郷土芸能保存会	日立風流物の公開や修繕
	小木津浜郷土芸能保存会	小木津浜の風流物の公開や修繕
	助川海防城跡保全会	助川海防城跡の保存と整備、研修会開催等
	毘沙門組太子像保存会	覚念寺太子堂の木造聖徳太子坐像の管理
保存会	久慈薬師堂保存会	久慈町の薬師堂の管理
	留町聖観音堂護持会	留町の木造聖観音堂と内部の像の管理
	常陸之國御諏訪太鼓保存会	信州諏訪地方ゆかりの諏訪太鼓の継承
	八つ凧保存会	八つ凧の製作講座や大会の主催
	十王町徒歩鵜漁伝統文化保存会	十王川で行われてきた徒歩鵜漁技術の継承
日立市文化協会日立市文化少年団	日立ふるさと文化少年団	日立市の歴史や文化の体験
	助川海防城を調べる会	助川海防城の歴史調査
	水木ささら保存会	泉神社へのささらの奉納
	常陸之國御諏訪太鼓保存会少年団	信州諏訪地方ゆかりの諏訪太鼓の演奏
調査・研究会	郷土史を学ぶ会	『日立市絵馬調査報告書　ひたちの絵馬』刊行等
	共楽館史料調査会	『史料集共楽館―地域とともに歩んだ50年―』刊行等
	鉱山の歴史を記録する市民の会	『鉱山と市民―聞き語り日立鉱山の歴史―』刊行等
	古文書学習会	『柴田方庵日録』、『道中記にみる江戸時代の日立地方　岩城、棚倉街道を旅する』刊行等
	山椒の会	『日立の民間信仰』刊行等
	新聞史料をつくる会	『日立市関係新聞記事表題索引目録』刊行等
	助川海防城跡保全会	『ガイドブック　助川海防城と陣屋・番所・台場』刊行等
	ひたち巨樹の会	『茨城の巨樹　日立市郷土博物館写真パネル目録』刊行等
	日立市の戦災と生活を記録する市民の会	『日立戦災史』刊行等
	ひたち碑の会	『日立の碑』刊行等
	日立の現代史の会	『日立製作所と地域社会』刊行等